

# 監視者のお仕事について

## ◎監視位置として適切な場所はどこか

- 指導者・引率者用の地図には、“注意を要するポイント”として、「道が複雑に交差していて迷いやすいところ」や「そのまま進むと私有地に進入したり活動エリアから大きく外れてしまったりする可能性のあるところ」などが記されています。
- 事故を防ぐ観点から、上記のポイントは、いずれも効果的な監視位置となります。動員できる監視者の人数が少ない場合は、参加者のスキルや当日の気象条件に応じて監視場所を精選して下さい。人数にゆとりがある場合は、崖の付近や急な坂道など、具体的な危険箇所にも配置することができます。
- 重要なことは、参加者が歩くところや進入する可能性のあるところは、指導者・引率者が“必ず”実地実踏をしておくことです。実施前に実際の場面に即したシミュレーションや危険予知をしておくことは、欠かすことが出来ません。

## ◎注意事項

- 監視者は、自分の任務を認識することが大事です。そして、何かあった時どうするのか——決めてあることも重要です。監視は、「何か異状があったら早く発見する」のではなく、「異状がないことを確認する」のが使命です。「何も起こらなかつたから、わたしの持ち場はヒマだった」と言うような人は、監視メンバーから外しましょう。
- 何か異状が発生した場合でも、監視自体は続行しなければなりません。したがって、事故対応する者と監視を続行する者とは、独立して確保する必要があります。何かあったとき自由に動けるフリーランサーは、あらかじめ位置付けておきましょう。  
オリエンテーリングやウォークラリーでは、一旦通過したポイントを何かの都合で参加者が逆走してくることがあります。参加者が全員ゴールして本部から指示があるまで、監視者は、勝手に持ち場を動いてはいけません。
- 監視者は、参加者のケガや病気に対応するための救急箱はもちろん、監視者自身の健康と安全を守る配慮も必要です。虫除けスプレーは OK ですか？ 帽子やサングラス、日焼け止めクリームは万全ですか？ 無線機や携帯電話などの確保も必須です。予備電池は OK ですか？ 電波状況の事前確認もお忘れなく——。

## ◎チェックリスト

- 基本的な確認事項
  - 誰が通過したか。グループ活動の場合、人数、構成人員に異状がないことも。
  - 通過時刻（「〇時〇分に」という表現で。「〇分前に」という表現は補足的に使う）
  - 進行方向。
- 補足的な確認事項
  - 健康状態。とくに表情。
  - 何か困っていないか。他のグループが困っているという情報があれば、それも。
  - 技術的な問題はないか。（地図の紛失、コンパスの使い方が分からなくなった等）
- その他
  - 飲料水等に不足が生じていないか。
  - それ以後のプログラムに支障をきたす可能性のある要因はないか。
  - その他、直感的になにか気付くこと。